

CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ヤマダデンキ豊田店	階数	地下0階地上4階
建設地	〒480-0001 豊田県豊田市中区南1-1-1	構造	S造
用途地域	近隣商業地域	平均居住人員	50人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2026年3月 予定	評価の実施日	2025年5月9日
敷地面積	8,170㎡	作成者	中村敏男
建築面積	5,474㎡	確認日	2025年5月9日
延床面積	18,324㎡	確認者	中村敏男



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.7 ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 90%
③上記+②以外の 90%
④上記+ 90%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 1.3

LR のスコア = 2.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.4</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>4.0 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>2.9</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材・外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
 (仮称)ヤマダデンキ豊田店

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		独自基準		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質												
Q1 室内環境												
1 音環境												
1.1 室内騒音レベル		0.1	3.0	0.15								3.0
1.2 遮音		0.4	3.0	0.40								
1 開口部遮音性能			3.0	1.00				3.0				
2 界壁遮音性能			3.0	-				3.0				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			3.0	-				3.0				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			3.0	-				3.0				
1.3 吸音			3.0	0.20				3.0				
2 温熱環境												
2.1 室温制御		0.3	3.0	0.35								3.0
1 室温		0.5	3.0	0.50								
2 外皮性能		3.0	3.0	0.50				3.0				
3 ゾーン別制御性		3.0	3.0	0.17				3.0				
2.2 湿度制御		3.0	3.0	0.33								
2.3 空調方式		3.0	3.0	0.20				3.0				
3.0 3.0		3.0	3.0	0.30				3.0				
3 光・視環境												
3.1 昼光利用		0.2	3.0	0.25								3.0
1 昼光率		0.5	3.0	0.50								
2 方位別開口		3.0	3.0	-				3.0				
3 昼光利用設備		3.0	3.0	1.00				3.0				
3.2 グレア対策												
1 昼光制御		5.0	3.0	-				3.0				
3.3 照度		3.0	3.0	-				3.0				
3.4 照明制御		3.0	3.0	0.50				3.0				
4 空気質環境												
4.1 発生源対策		0.2	3.8	0.25								3.8
1 化学汚染物質		0.5	4.0	0.50	F☆☆☆☆を使用							
4.2 換気		3.0	4.0	1.00				3.0				
1 換気量		0.3	4.0	0.30								
2 自然換気性能		3.0	3.0	0.50				3.0				
3 取り入れ外気への配慮		3.0	3.0	-	取り入れ口と排気口が異なる方で、かつ6m以上離れている			3.0				
4.3 運用管理		3.0	5.0	0.50								
1 CO ₂ の監視		0.2	3.0	0.20								
2 喫煙の制御		3.0	3.0	0.50				3.0				
3.0 3.0		3.0	3.0	0.50				3.0				
Q2 サービス性能												
1 機能性												
1.1 機能性・使いやすさ		0.4	3.0	0.40								3.0
1 広さ・収納性		0.4	3.0	0.40								
2 高度情報通信設備対応		3.0	3.0	-				3.0				
3 バリアフリー計画		3.0	3.0	1.00				3.0				
1.2 心理性・快適性		0.3	3.0	0.30								
1 広さ感・景観 (天井高)		3.0	3.0	0.33	天井高3.6m			3.0				
2 リフレッシュスペース		3.0	3.0	0.33								
3 内装計画		3.0	1.0	0.33								
1.3 維持管理		0.3	3.0	0.30								
1 維持管理に配慮した設計		3.0	3.0	0.50								
2 維持管理用機能の確保			3.0	0.50								
2 耐用性・信頼性												
2.1 耐震・免震・制震・制振		0.3	3.1	0.31								3.1
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		0.4	3.0	0.48								
2 免震・制震・制振性能		3.0	3.0	0.80								
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	3.0	0.20								
1 躯体材料の耐用年数		0.3	3.3	0.33								
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			3.0	0.23								
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			3.0	0.09								
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.08	給水HIVP(B)、排水VP(B)、給湯SUS [®] 、Eは不使用							
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			5.0	0.15								
6 主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.23								
2.4 信頼性		0.1	3.0	0.19								
1 空調・換気設備		3.0	3.0	0.20								
2 給排水・衛生設備		3.0	2.0	0.20								
3 電気設備		3.0	3.0	0.20								
4 機械・配管支持方法		3.0	3.0	0.20								
5 通信・情報設備		3.0	4.0	0.20	複数の通信経路を敷設							

3 対応性・更新性					0.2	3.3	0.29	-	-	-	3.3
3.1 空間のゆとり					0.3	4.2	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり			②	階高4m以上	-	5.0	0.60	-	3.0	-	
2 空間の形状・自由さ					3.0	3.0	0.40	-	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり					3.0	3.0	0.31	-	3.0	-	
3.3 設備の更新性					0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性			②		-	3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性				3.0	3.0	0.17	-	-	-		
3 電気配線の更新性				3.0	3.0	0.11	-	-	-		
4 通信配線の更新性				3.0	3.0	0.11	-	-	-		
5 設備機器の更新性				3.0	3.0	0.22	-	-	-		
6 バックアップスペースの確保				3.0	3.0	0.22	-	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)					-	-	0.30	-	-	-	1.3
1 生物環境の保全と創出			独自③		-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④		-	1.0	0.40	-	-	-	1.0
3 地域性・アメニティへの配慮					0.3	2.0	0.30	-	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④		-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					-	2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性							-	-	-	-	2.8
LR1 エネルギー							-	0.40	-	-	2.6
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI=1.03	3.0	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.20	-	-	-	3.0
3 設備システムの効率化				BEI=0.76	3.0	3.8	0.30	-	-	-	3.8
4 効率的運用					0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価					1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング					3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制					3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価					-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング					-	3.0	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制					-	3.0	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル							-	0.30	-	-	2.9
1 水資源保護					0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水				あり	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	2.7	0.63	-	-	-	2.7
2.1 材料使用量の削減					-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					-	3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			②	-	-	3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自	-	3.0	1.0	0.20	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	3.0	0.05	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自	躯体+軽鉄+仕上材	3.0	4.0	0.24	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	3.0	0.68	-	-	-	
1 消火剤					-	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)					-	3.0	0.50	-	-	-	
3 冷媒					3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境							-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率90%	-	3.4	0.33	-	-	-	3.4
2 地域環境への配慮					0.3	2.4	0.33	-	-	-	2.4
2.1 大気汚染防止					-	5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				燃料機器は使用しない	-	1.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	2.7	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減			独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制			独自	適切な駐車場台数、荷捌場の確保	-	4.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制					-	1.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮					0.3	3.2	0.33	-	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音			独自		-	3.0	1.00	-	-	-	
2 振動			独自		-	-	-	-	-	-	
3 悪臭					-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制					0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制					-	3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制					-	3.0	-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制					-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制					0.2	4.4	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				エネルギーの有効利用	-	5.0	0.70	-	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策			3.4
LR3-1 地球温暖化への配慮	3.4	0.10	
② 資源の有効活用			2.9
Q2-2 耐震性・信頼性	3.1	0.09	
Q2-3 対応性・更新性	3.3	0.09	
LR2-2 非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
③ 敷地内の緑化			1.0
Q3-1 生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:4%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			1.0
(評価ポイント)			
Q3-2 4) 地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2) 地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)ヤマダデンキ豊田店

計画上の配慮事項	
総合	<p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 利用者に配慮し、F☆☆☆☆を使用している。 主要給排水配管は耐用年数が高い材料を使用している。 ライフサイクルコストの低減に努め、地球環境保護に配慮している。</p>
Q1 室内環境	<p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。</p>
Q2 サービス性能	<p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 給水HIVP (VP相当)(B)、排水VP(B)、給湯SUS(C)、Eは不使用。 3.9m以上。</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 敷地や建物の植栽条件に応じた適切な緑地づくりを行っている。</p>
LR1 エネルギー	<p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 BPI_m=1.04。[BEI][BEI_m]=0.76。</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 節水コマなどに加えて、省水型機器(節水型便器など)などを用いている。 「躯体+軽鉄+仕上げ材」により、躯体と仕上げ材が容易に分別可能。</p>
LR3 敷地外環境	<p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ライフサイクルCO₂排出率が、一般的な建物(参照値)に対し90%。</p>
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。 特にありません。</p>